opusdei.org

## 黙想の祈り:年間第 25主日(B年)

黙想のテーマ:「試み」「艱 難において成長する」「内的 な敵に対する強さ」

試み

艱難において成長する

内的な敵に対する強さ

イエス・キリストは、この世で多く の素直で善良な心の人に出会いま す。人々は、主の振る舞いや言葉に 感動して主に近づきます。主は、より完全で要求度の高い、と同時に近づきます。と同時にで要求度の高い適った生活の人間的で神のみ旨に適の人がます。多くのります。多くのります。多くのります。ない生き方に照らされたちは疑帝に近づきまた、がしまが表しまない。「何か理由があるでしょうか」(ルカ20・22)。「何か理由があるでしょうか」(マタイは、表が妻を離縁することは、律イ19・3)。

人は新たなメッセージに接すると、 それを伝える人の振る舞いがその メッセージに一致しているかどうと とないないます。それにおった 親や教育者たちとの関わりにおいしる 親や教育者たちとです。した 親や教育者たちとです。して りに見られることは、ない は、この事を ました が潜んでいます。「神に従う人は 取り上げています。「神に従う人は 邪魔だから、だまして陥れよう。彼の言葉が真実かどうか見てやろう。 生涯の終わりに何が起こるか確かめよう」(知恵の書2・12、17)。

こういうことで、キリストの側近く から従いたいと望んでいる私たち は、例えば什事が集中したり、経済 的な問題が出て来たり、同僚や親戚 と意見が会わなかったする時など、 困難な状況において自分が本物かど うかが試されます。こんな時こそ、 何よりも神に頼る事です。それらが 信仰を浄化するための試練であるこ とを弁え、希望をもってそれらの状 況を受け入れることできるよう、主 が助けてくださるでしょう。「お先 まっくらに思えても、実はまっくら ではありません。『主よ、御身こ そ、私ののがれ場』(詩編42・2)であ られます。主が心の中にお住まいに なれば、たとえすこぶる重要に思え ても諸々のことは一時的ではかない ものに過ぎず、神のうちにいる私た

ちこそ永続するもの、留まるものであることがわかります | m.

水や太陽は物を劣化させる一方、生きものの生育を助けます。命のないものは崩壊し腐食します。しかし、命の原理を有する種子は埋没せず、逆に埋められることによって、隠れたところで芽を出し育ちます。です

から、困難を前にして詩編作者のよ うに祈ることができるのです。「異 邦の者がわたしに逆らって立ち、暴 虐な者がわたしの命をねらっていま す(…)。見よ、神はわたしを助けて くださる。主はわたしの魂を支えて くださる | (詩編54・5、6)と。こうし て私たちは、困難を成長していくた めの手段として活用する生き方をす ることができます。と言うのも、イ エス・キリストが、私たちの罪を担 い、神から頂いた新たな生き方がで きるようにしてくださったからで す。

主と共に歩む私たちの道で様々な障害に遭遇するのは当然です。といい、祈りの時間や秘跡に与るともまずにたった。ときずれるでは、からないがあります。というなが難しい事があります。このような状況は、私たちが実際によりないるかを明確にし、神と共

に生きる望みを強めるように、助け てくれるでしょう。「本物のあこが れは、自分の奥深くの琴線に触れる ものです。ですから、困難や挫折が あろうとも、それが消えることはあ りません。喉が渇いたときと同じで す。飲む物が見つからなくても、喉 の渇きは引っ込みません。それどこ ろか欲求は募り、渇きを和らげるた めにどんな犠牲をもいとわないほ ど、それに頭が占められ、あらゆる 行動がそのためのものとなります。 ほぼ取りつかれている状態です。障 害や失敗があこがれを抑えることは ありません。それどころかそうした ものは、心のあこがれを膨らませる のですしほ

剛毅の徳は、「粘り強く善を追求させる倫理徳です。誘惑に抵抗したり、倫理生活の障害を克服したりす

る決心を固めさせてくれるもので すしい。これらの困難が外的なもの である場合、時に人はそれを善に変 えるために僅かなことしか出来ない 時があります。しかし多くの場合に おいて、これらの困難は内的な敵に 関することです。「不安や、苦悩、 恐れ、罪の意識などは、私たちの心 を乱し、場合によってはわたしたち を動けなくさせます。(…)。私たち の心に生まれる恐れの多くは現実に 即していません。ですから、聖霊に 祈り、忍耐強い勇気をもってそれに 立ち向かうのがよいのです。できる ことから一つずつ。しかし私たちは 一人ではありません。私たちが主に 信頼し、誠実に善を追求するなら ば、主は私たちと共におられます。 こうして全ての状況において、盾と なり鎧となってくださる神の摂理に 頼ることができるようになります|

おそらく誰でも何かに苦しんだ経験 があるでしょう。ある試験に不合格 だった、計画がうまくいかなかっ た、健康上の問題や愛する人たちの 問題で生活を抜本的に変えなければ ならない…。場合によって、このよ うなことによって生じる心の不安で 緊張した状態は行動を促し、大惨事 を防ぐ役に立つでしょう。一方で、 このような心の状態が助けにならな い時もあります。なぜなら、それが 日々生じるより現実的な状況との戦 いを阻み、多くの場合実現されない 〈仮説〉に気を向かわせるからで す。

主に、内的な明確さと強さを持つ事ができるよう、照らしと不屈の精神をお願いしましょう。自己の苦しみは、今ある現実と向き合うことを助けてくれるものか、あるいはそう防ちに想像して自分をいじめ、自ら苦いみを作り出しているとしか思えない

人が大勢いる。後になって、本物の苦しみや障害がやって来たとき、とまって十字架の下で、でまったがでいることがである」は、イエスのいくである望みのうちに日々である望みのうちに日といて、空間できるよう、聖母に助けを願いしまっ。

[1] 聖ホセマリア『神の朋友』92 番。

[2] フランシスコ、一般謁見演説、 2022年10月12日。

[3] 「カトリック教会のカテキズム」1808番。

[4] フランシスコ、一般謁見演説、 2024年4月10日

## [5] 聖ホセマリア『拓』248番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-nenkann-25shujitu-b/(2025/12/16)